

【別添 2】 ※HP への掲載は行わない

【機密性 2 情報】（保存期間：1 年未満）

【局内限り】

令和 5 年 12 月 11 日  
嶺北森林管理署

令和 5 年度 低コスト造林現地検討会

※相手方未確認

1 開催日時

令和 5 年 12 月 11 日（月） 14:00～15:30

2 開催場所

向山国有林 103 林班（高知県香美市穴内）

3 参加者

高知県：7 名

市町村：8 名

林業事業体：9 名

局・署等：7 名（森林技術・支援センター 3 名、嶺北署 4 名）

4 概要

昨今の造林事業では獣害対策は必須となっている。その上でいかにコスト削減を行うか、向山 103 林班で、一貫作業、低密度植栽、単木保護、金属製ネット、忌避剤、下刈省略等について意見交換を行った。



5 主な意見・質疑等

- 金属ネットの設置について、慣れた人が行くと一人役で何m程度か、また見回りの頻度は樹脂製のネットと比較してどの程度か  
→メーカーの資料によると、地形等の条件にもよるが 100m 8 人程度、見回り頻度は 1/10 程度
- 忌避剤について、試験を行った忌避剤でいちばん効果のあったものはどれか  
→アスファルト乳剤>コニファー>木酢液の順で効果があった。ただしコニファーは年 2 回の使用制限がある
- 単木保護具の撤去についてはどのように考えているか  
→現時点で確たるものはないが、撤去単独での発注ではなく除伐や間伐と同時に発注す

【機密性 2 情報】（保存期間：1 年未満）

【局内限り】

る方法も考えている

- 保護資材の梱包材（袋）なども産業廃棄物の扱いとなるため負担となっている。また、当社ではベテランの作業員が高齢化により退職したため除伐作業の経験がない作業員のみとなっている。このため作業員の育成の必要性を感じる【有限会社まんさく】
- 国有林では下刈の頻度についてどう考えるか  
→（C 区分について説明後に）当地では 1 回目と 2 回目の下刈を省略し、3 回目については下層植生の繁茂状況により判断する
- 3,000 本植に比べて 1,600 本植は下刈時に草が固く掛り増しとならないか  
1,600 本植の個所を下刈した事例はまだあまりない。今後そのような声があれば対策を検討するとともに情報を共有する
- 国有林では冬に下刈を行っていると聞いたが、どのような意図で行っているか【有限会社まんさく】  
作業員の労力の軽減、熱中症やハチ刺され災害の防止などを目的に行っている。なお、夏下刈と冬下刈を比較した試験区があるが、そこでは成長に大差は見られなかった